

## 長期戦略有識者懇談会 北岡座長第2回ヒアリング議事概要

長期戦略有識者懇談会の北岡座長が開催した第2回委員ヒアリングにおけるテーマごとの主な発言概要は以下のとおり。

### 【海外向け石炭火力に関する議論】

- 石炭火力への公的支援を行わないという判断を政府に求めたい。しかし、それは委員全員の合意にはならないので、一番のポイントは、今後、石炭火力について政府で議論をするのか否かである。様々な意見を併記しても、また、なにも記載しなくても、政府プロセスで議論を喚起していただくことが重要。
- 委員の意見を併記する方がよいのではないか。その文言にはこだわらないが、途上国への国際支援が「パリ協定の長期目標と整合的に」行われるよう、石炭火力への公的支援についてより具体的検討が必要であることは明確に伝えるべき。
- 石炭火力の輸出について議論があったことは伝えるべきではないか。
- 国内外に対して石炭火力に対する日本のスタンスを適切に発信すべき。
- 異なる委員の意見を併記しても、何も記載しなくてもどちらでもよい。どの国のメーカーの設備が採用されるかは受注先の国が決めることである。日本の高効率技術を用いた石炭火力が採用されるかは経済合理性が肝である。
- この提言の文章だけでメッセージを打ち出していくのかは難しい問題ではないか。
- 何も記載しない方が適切と考えてきた。最終的にはどちらでもいいが、委員の意見を併記する場合は、記載内容について検討が必要。
- 何も記載しない方が適切と考えてきた。最終的にはどちらでもいいが、委員の意見を併記することは同床異夢に見える。

### 【負担の衡平性に関する議論】

- 将来的に、CO2 に対して地球に住むすべての人間が同じような責任を負っているということを喚起する必要があるのではないか。
- 世界全体で平等に温暖化対策を考えていくことに繋がるため、記載すべき。
- この長期戦略は成長戦略であり、温暖化対策を進めることが経済成長や社会的課題解決の契機となるというこの戦略の視点からすると、負担の衡平性について記載することに

は違和感がある。

- 過去、中国では、一人当たりでの排出量は少ないという主張をしていた。この記載は、過去の中国の議論を思い出させる上、産業構造がそもそも違う。記載は不要ではないか。

#### 【長期的なビジョンに関する議論】

- 野心的なビジョンについて、パラダイムシフトや脱炭素社会の記載があるが、これをもって十分に野心的なビジョンであるとは言い難い。野心的なビジョンとするためには2050年に脱炭素社会を目指すを書くべき。
- 脱炭素社会は実質ゼロ。ゼロを目指す、としてはどうか。
- 日本にとって「脱炭素化」は、産業構造を変えていくという大胆な宣言に等しく、その実現に向けたイノベーションを推進することのインパクトは大きい。
- 1. 5℃目標は非常に困難な目標。問題解決の道筋が立たない中で、大きいことばかり書くことも問題。今世紀後半のできるだけ早期に脱炭素社会を実現していくことを目指す、ということでも十分に野心的である。
- 「野心的」のとらえ方は人によって異なる。夢物語だけ記載すべきでは無い。イノベーションの内容や官民を挙げて取り組んでいく、といったことで野心的なスタンスを示すこととしてはどうか。
- もっと野心的なビジョンが望ましいが、分野ごとに個別に見ていくと、2050年に脱炭素化をめざすさらに踏み込んだ目標の記載もある。野心的なビジョン・目標を分かりやすい形で整理をして、国内外に向けて発信することが重要。
- 「脱炭素社会」は最終到達点。2050年80%は中間点、目指すのは「脱炭素社会」であるということに記載すれば、「野心的」になるのではないか。
- 海外に十分野心的と受け取られない恐れがある。80%を強調するのではなく「ネットゼロ」と記載すること等について検討すべき。
- 他国と比較しても十分に野心的だと思う。実効性に裏打ちされない数字を出して、責任を持たないのはよくない。

#### 【その他】

- 発信について工夫していくべき。
- ステークホルダーとの連携を強調すべき。